

饗庭秀男氏抑留体験を語る その1 抑留まで・抑留者の為の仕事

インタビュー実施：平成22年8月26日

場所：東京九段 全国抑留者協会

語り手：饗庭秀男氏

1923年生まれ。製鉄メーカーに勤務。昭和19年に現役入隊。戦後1945年8月から1949年7月までソ連に抑留。帰国後同製鉄メーカーに再就職。その後抑留全国強制抑留者協会理事。全国強制抑留者協会事務局長として、機関誌の発行、慰霊訪問、中央慰霊祭、地方慰霊祭、展示会、補償を目的とした日露シンポジウムの開催、抑留者からの相談事業、語り継ぐ労苦の会の開催などに当たる。
<http://zaidan-zenyokukyo-com.ssl-xserver.jp/>

構成／和文英訳／聞き手：榊原晴子

東京都出身。カリフォルニア大学東アジア言語文化学科日本語専任講師
平成27年に「日本人のシベリア抑留」について日英両語のウェブサイトを出版。
japaneseinsiberia.ucdavis.edu

インタビュー1より抜粋

私は饗庭秀夫です。生年月日は大12年の6月7日。1923年ですね。ですから、年齢が丁度、満で87才です。現在は財団法人の強制抑留者協会で理事を務めながら、事務局長を務めております。

大雑把に具体的な内容を言いますとですね、基本的には抑留されておって生存して帰って来た方々の慰謝事業と、これを総務省の方の指示に基づいて動いております。

(以下強制抑留者協会が実施している仕事についての概要が語られている。)

インタビュー 1

榊原： お名前と生年月日をお願い致します。

饗庭： 私は饗庭秀夫です。生年月日は大正 12 年の 6 月 7 日。1923 年ですね。ですから、年齢が丁度、満で 87 才です。

榊原： それでは、現在のお仕事は？

饗庭： 現在は財団法人の強制抑留者協会で理事を務めながら、事務局長を務めております。

榊原： それでは、あのう、お仕事の内容について、少しお教えいただけますか。

饗庭： 財団法人の強制抑留者協会の事業内容と言いますとね、公益法人でございますので、寄付行為、いわゆる一般の会社で言うと、けいかに相当するものに、一応その内容が定められています。目的、あるいは事業内容、というような事については、寄付行為に沿って私は動いております。

饗庭： 具体的な内容ということになって来ますと、相当色々ありますので、資料をまたお渡し致しますけど、大雑把に具体的な内容を言いますとですね、基本的には抑留されておって生存して帰って来た方々の慰謝事業と、これを総務省の方の指示に基づいて動いております。

饗庭： では、事業として具体的な物は何だと、こういうことになって来ますと、機関誌の発行。これは全国の抑留者に対してですね、どういうふうな事業があるか、またどういう風な政府の考え方があるか、具体的な内容の報告あるいは連絡等を機関誌でやっております。もちろん実績も色々載せますけれどね。

饗庭： それから具体的になりますが、現地で亡くなった連中ですね、慰霊訪問と称していますが、慰霊訪問することによって生存して帰ってきた連中の慰謝になると。戦友のお墓にお参りたいと。まあ、遺骨が既にこちらへ帰って来ている物もありますけれど、まだ収集のできてない物に対して慰霊訪問ということで実施しております。

饗庭： それと、経験者が主体の事業ですから、先生たちが帰って来てから現地でどういう作業をしておったか、また帰って来てからどういった気持ちでおったかという自分の経験談を全部原稿として送ってもらって、一冊の平和の礎という本にまとめて経験者はもちろんですけど、現代の若い方にもどういう状況であったのかということを知ってもらうための本の発行をしております。

饗庭： それから後、向こうで亡くなられた方、またこちらへ帰ってから亡くなられた方のために、慰霊祭を催しております。慰霊祭は二通り。全国的に中央で実施する中央慰霊祭。沖縄から北海道までご案内を差し上げて、今までは東京の九段会館を使って行っております。それと各県ごとに、我々の方で慰霊碑を建立しておりますので、これは東京まで来れない方もおられますので、現地でやる地方慰霊祭、これを両方合わせまして、慰霊祭として実行しております。

饗庭： それ以外に、復員してからむこうでの苦労を先ほどの礎記事ではなく、わかりやすく思い出しながら絵にした物を収集して、大体年に 10 カ所、各県で展示会と称して、絵画の展示をしています。ただその時に若干向こうから帰ってきた時に持ってきた品物、履物だとか娯楽に使った麻雀パイだとかスプーンだとか、現地から持ち帰った物、基本的には本来持ち帰られませんけど、些細な日用品なら持たしてくれましたので、それから着て帰った物。こういう風な物を展示会と称しまして目で見てもらってという事業を展示会としてやっております。

饗庭： それから、政府の方の動きでなく、我々の方として、対ロシアに対する要望があるわけなんです。これは5つ6つありますけど、私物品が、現在ロシアの方ではないと言うんですけど、慰霊訪問その他で行くとどうしても色々な私物品があると。ただ、兵器とこれは我々の方で要望しても無理なんですけど、日記帳とか住所録だとか、思い出して書かれている記述した文と。こういう風な私物品を返してくれと。その問題が一つ。埋葬地の手入れが非常に悪い。お墓の手入れをきちんとしてほしい。

饗庭： 補償をちゃんとしてほしい。政府の方では要求はできないけれど、個人の方の要求は制限されていないという話があるので、個人でロシア政府に対して保証要求をしているという問題もある。直接向こうの省庁それから向こうの OB や権威者に対して集まってもらって、毎年シンポジウムという形で我々の要求を出し、向こうの好意ある方が、向こうの政府の方への働きかけ、というようなこ

とを毎年続けてやっている。最近はそれがどういう結果で進展しているかと知ってもらう為に、逆にあちらの政府の方をこちらへ招き、こちらの政府の方にも出てもらって状況を聞いてもらう。日露シンポジウムという形での打ち合わせ会、調査を行っている。

饗庭： このシンポジウムで成果が上がっているのは、個人の身上書というようなものが、我々が抑留で入った時に作ったものが、すでに発見されている。それから去年おとし、いわゆる公文書間で、向こうの官庁から言われたカードの問題がある。収容されていた人間のカードが発見されている。これも私達が向こうへ行った時に 6 万 9 千人分のカードがあるとわかったので、そういうカードがあるなら、是非日本の方へもraitたい。でも、これは外交の問題がありますので、厚生労働省の方へ出して、去年の暮れからこのカードが入ってくるような、こういうような成果をあげるようなシンポジウム、これをずっと実行しております。

饗庭： それ以外に本にする、絵にするのではなく、経験者がグループになって報告しようじゃないか、という語り継ぐつどいという事をやっています。

饗庭： 色々抑留者から相談がある、恩給、慰労金、交付金、埋葬地の問題、亡くなられている場所の調査など、色々な質問があるので、それを相談事業として、できるだけことはしようとしています。抑留に関しては、まだ色々な問題がありますが、ベストをつくしています。